

# きらり

酒田市農業委員会報 No.23



「お盆の需要期に向けて」 ～小菊の収穫作業(刈屋地区)～

## 特集

酒田市ひらたファームステイの歩み (2、3面)

復興の願いを届けに『までの里』飯舘村へ (4面)

花いっぱい笑顔いっぱいに 土里夢の会

農業委員会活動レポート (5面)

あと4カ月で農業委員が改選されます (6面)

農業青年出合い・交流創設事業

若手農業者リレーエッセー かぜ

麦わら通信 短信 (7面)

23年夏季号

自然  
文化 農業

# 都会の子どもたちが農村の夏を満喫!!

## ～酒田市ひらたファームステイの歩み～

毎年生徒の受け入れをしている前田さんと第3回に生徒として参加した名取川さんに、「酒田市ひらたファームステイ」への“想い”を語っていただきました。

**今、改めて伝えたい想い**  
津田塾大学2年 名取川 翔子

2005年の夏、中学2年生だった私は旧平田町にファームステイでたいへんお世話になりました。帰りのバスの中からお父さんが見えなくなるまで、涙のしょっぱさを感じながらずっと手を振り続けたあの夏の日から6年。緑滴る山々も、風も日の光も、家族のあったかい笑顔もごちそうも、今も変わらぬそのままのぬくもりで私の心に生き続けています。

20歳を迎える私を今もなお気かけ、応援してくれる、そんなもう一つの家族がいてくれることは当たり前ではありません。「あなたがいてくれてありがとう」そう思える気持ちの大切さをそっとのようで、ずっしりと、いただいた愛から学びました。

今も私の心の大切なパワー供給源である旧平田町での鮮やかな思い出。出逢えた家族の皆様を改めて感謝しております。



**山形の父・母とよばれて**  
前田 富貴子 (北俣)

初年度から数年間は、末娘も混じって四姉妹でワイワイ過ごした。3年前からは主人と二人暮らしの我家に、三人娘が元気と明るさを持ってやって来る。「お父さん」「お母さん」と呼んでくれるけれど、どちらかというと祖父母の世代なのにと気恥ずかしい。生活の流れは毎年同じ。夕食も餃子と手巻き寿司だ。あれこれ悩むことなく娘たちとじっくり楽しめる。農作業をしたり、星を観て花火をしたり、うちの子どもの小さい頃が蘇る。

3月の震災の折、全く連絡の無かった1期生の娘から「お父さんお母さん、山形は大丈夫？」と心配の電話をもらった。予期せぬ事で嬉しかった！娘たちにとって、数年経った今でも私たちは山形の父、母であることが。

長年の受け入れで娘の数も増えた。いつか前田ファミリーの同窓会を開こうと、夢は膨らむ。



**【受入れスケジュール】**

日	日	日	内容
1日目	8/19 (金)	夕方夜	酒田市(平田)に到着 17:15 開校式 19:00 各家庭で夕食、懇談
2日目	8/20 (土)	午前	各家庭で農村生活体験
		14:00-16:30	班別に「ふるさと体験教室」
3日目	8/21 (日)	夜	夕食、懇談
		午前午後	各家庭で農村生活体験
4日目	8/22 (月)	夜	夕食、懇談
		朝	集合 8:00 開校式 8:45 酒田市 出発 (飛鳥中経由で羽黒山へ)



トウモロコシとハイチーズ  
もとファームステイの成功を祈ります。  
(後藤保喜委員)



主人形づくりに挑戦  
涙の見送り「まだ来いの～」

**今年で九回目**  
平成十五年、合併前の旧平田町の時より始まった「酒田市ひらたファームステイ」は、足掛け九年、この八月に九回目の開催となります。

都市との交流により新たな人と人とのつながりをつくり、地域の活性化につなげることで、都市部の若い感性を感じて、共に農村生活を体験することにより自然・文化・農業を見直す機会をつくることを目的としています。

受入れ家庭も今では平田地区に限らず、新堀地区や本楯地区と各地区に広がっています。これまで受入れた生徒数は一七六六名を数えます。

**【受入れスケジュール】**  
ファームステイの様子をスケジュールに沿って紹介します。

開校式を終え、いざ受入れ家庭へ。生徒たちは緊張きみ。方言に戸惑いながら夕食を済ませたあたりから、だんだん打ち解けてきます。

今年も東京の私立「田園調布学園中等部」の二年生二三名が、八月一九日より三泊四日の日程で訪れ、農村の生活を体験する酒田市ひらたファームステイが開催されます。



開校式で緊張の対面

二日目の午前中は、農作業を体験します。枝豆やナスを収穫したり、大根の種まきをしたり。自分たちで収穫した野菜が、食卓に上ると感激もひとしお。午後は「ふるさと体験教室」。川遊びや庄内さしこ、そば打ちやしそ巻き作りと、今年は十一の体験教室があります。

三日目は受入れ家庭の家族と思い思いに過ごします。山居倉庫では多くの受入れ家庭に出会えます。その夜は、バーベキューや花火で楽しむ家庭が多いようです。



「田んぼはこんなに広いんだ～」

三泊四日はあつという間に過ぎ閉校式。あちらこちらに涙ぐむ生徒も。酒田を第二の故郷に、「まだ来いの～」と山形の父と母は手を振ります。

**【寄せる思い】**  
ファームステイでは、実際の体験や人と人とのふれ合いによって、得るものを感じるものを大切に行っているように思います。

受入れ実行委員会の小林清実 行委員長は生徒たちに、「五感を大切にし、フルに働かせ、今まで見えなかった新たな発見、今までにない感じ方、違う感動、日常の学習ではできないそんな体験をしてほしいことを願っています。」と話されています。

また、田園調布学園西村弘子校長からは、「みちのくの農村生活や農作業をその地の方々との交わりの中で体験させたい、『うちの子』にしていただいての気づきが、自然や異文化への関心を広げ、共に生きる知恵を得るはず、と、お世話になって九年目。みんなが『酒田は故郷』と思っています。ご家庭や飛鳥中学校との相互交流も増え、皆様のお蔭と感謝しきりです。」とファームステイに寄せる思いを語っていただきました。



川遊びで自然とのふれあい

# 農業委員会活動レポート



秋にはおいしいサツマイモができますように

**【サツマイモ栽培】**  
 農業委員会では、耕作放棄地解消に向けた自主事業として、今年も宮野浦地区の耕作放棄地解消モデル圃場でサツマイモ栽培に取り組んでいます。  
 五月三〇日に定植作業を行い、一八〇〇㎡の畑に、二品種六六〇〇本（紅あずま五六〇〇本、金時一〇〇〇本）の苗を植えました。七月一〇日には、除草作業を行いました。  
 毎年おいしいと評判のサツマイモは、秋に農林水産まつりなどで焼芋にして提供する予定ですのでお楽しみに。



三本鋤で「よいしょ、よいしょ」

**【ゴドイモ収穫】**  
 七月二三日、本格的な夏を迎えたくさんの人で賑わう飛鳥で、今年も名物のゴドイモの収穫作業が行われ、耕作放棄地解消に取り組む農業委員会からも委員三名と職員四名が応援で参加しました。  
 今年は機械の故障のため、三本鋤とスコップによる手作業の収穫となりましたが、参加者のチームワークで前年度のコンテナ三〇個を大きく上回る四七個分を収穫しました。



おいしそうなゴドイモがいっぱい

## 耕作放棄地の解消に向けて

～サツマイモ&ゴドイモ～

## 始動 農家のおせっかい

おばさん



おせっかいおばさんが“出会い”をプロデュース

**女性の視点を 農業委員会活動に**  
 農業委員会庄内地方協議会女性部会では、六月六日に酒田市と酒田市議会に対して、今年一月の農業委員改選期に、引き続き複数の女性を登用していただくよう要請を行いました。  
 酒田市は諸先輩の長年の努力により先進的に女性登用していますが、全国でも一七〇〇余の女性農業委員が、女性ならではの感性と視点を活かして農業委員会活動を展開しています。農



農業に女性の感性と視点を

一昔前まで地域には、何かと結婚の世話を焼いてくれる農家のおばさんがいませんでしたか？  
 農村地域の元気で明るい農業青年に「出会いのチャンス」ということで、酒田市・三川町・遊佐町の女性農業委員六名が立ち上がり、「農家のおせっかいおばさんの会」を結成、活動をスタートしました。  
 今年一月二六日に男女の交流イベントを開催する予定です。

# 酒田農業を支える女性農業者活動レポート



佐野さん（前列左）

## 復興の願いを届けに 『までの里』 飯舘村へ



菅野村長（左）

去る六月一四日、みどりの里山居館役員は酒田うめもの会会長と共に、山居館で募った義援金、組合員みんなで折った千羽鶴と寄書、お米、苺、そして、土里夢の会から託された義援金とメッセージを届けるため、原発事故の影響により全域が計画的避難区域となっている福島県飯舘村を訪問しました。  
**【飯舘村との繋がり】**  
 村の若いお嫁さんたちを全国初「若妻の翼」としてヨーロッパ研修に送り出し、全国的に影響を与えたアイディアマンが現村長の菅野典雄さんです。飯舘村とは、菅野村長が平成五年に土里夢の会主催で開かれた「第一回おなごしょフォーラム」に、平成一年の第三回に「若妻の翼」の佐野ご夫婦がパネラーとして参加いただいて以来のご縁です。酒田の農家のお母さんたちが元気なのは、飯舘村の方々の影響を受けているからかもしれません。

**【復興への決意】**  
 菅野村長は「六月中には、村民全員で避難します。村を離れることはとても悔しい、二、三年後には帰ってきたい」と話し、ある山居館役員が「若いお嫁さんたちをヨーロッパへ送ったアイディアと実行力ある村長が良い知恵を出して、必ず飯舘村を甦らせると信じている」と伝えていました。  
**【元気で美しい村に】**  
 目に見えない放射能の影響で、目の前に恵み豊かな山の幸があるのに食べることができない。肥沃な農地がそこにあるのに、何も作れない、収穫できない。この憤りはどこに向けたらいいのでしょうか？  
 「元気で美しかった『までの里』（ゆつくり丁寧という意味）の里」には、早期避難で子どもと若い人の姿が全く無く、他県ナンバーのパトカーだけが往来していました。あるべき村の姿に戻ることが、一日も早く訪れることを切に願います。（関口友子委員）



1日も早く豊かな自然があるべき姿に



花壇を花いっぱい



花苗に願いをこめてプレゼント

**花の笑顔**  
 皆さんは、道を歩いている時、花壇にたくさんのお花が咲き揃っているのを見ると笑顔になりませんか？  
 土里夢の会では、毎年新井田川河川敷への花苗の提供や老人福祉施設の花いっぱい活動を行っています。  
 今年も六月一二日、芙蓉荘やかたばみ荘など四カ所の老人福祉施設で花いっぱい活動が行われました。会員の皆さんが育てた花苗を、施設の方々とお話をしながら、心をこめて植えました。  
 また、六月二一日には、市役所前で花苗のプレゼントが行われました。



# 麦わら通信

~売っています!!  
酒田の農産物~

## 「東日本大震災を受けて」

今回の東日本大震災の影響は東京でも非常に大きく、顕著に現れました。東京で震度五強を観測した三月一日以降、まず輪番停電という聞き慣れない言葉とともに町中が電気を落とし、真っ暗になりました。同時に「自粛」という言葉を頻繁に耳にするようになり、様々な催し物は全て中止になりました。そして、「自粛」は経済に大きく影響を与えている結果となり、東京の経済は大きく沈みました。震度三だった大阪などの関西圏では状況が異なるようで、町の明るさや活気の違いに驚かされた人づくりに聞かされました。今まで体験したことのない状況に、非常に戸惑う数ヶ月間でした。

麦わら帽子では、地震以降しばらく友好都市の商品(特に岩手県遠野市と酒田市)が入荷できず品揃えに大きな影響を受けました。その中で、被害が大きかった遠野市に義援金を送るため、武蔵野市民に呼びかけたり、現在は「岩手復興コーナー」

毎月第4土・日曜日は…  
**酒田フェアを実施中!!**



を常設し、遠野市や三陸地方の商品を販売することで復興の支援に少しでも協力できるように活動を行っています。

麦わら帽子の多くのお客様に私が酒田市出身ということ、「酒田市は大丈夫だったの?」「家族に被害は無かったの?」など温かい言葉をかけていただきました。その励ましの言葉に感謝するとともに、これからの東北の復興に少しでも力になれるように、微力を尽くしていきたいです。美しく豊かな東北の一日でも早い復興を願っています。(佐藤博幸)

## あと4カ月で 農業委員が改選されます

平成23年12月1日に新しく農業委員が改選される予定です。これまで委員の定数を38人(選挙委員30人、選任委員8人)としてきましたが、改選後からは定数が29人となります。

各選挙区の定数は、次のとおりです。

第1選挙区(西荒瀬、酒田支店、酒田北部、飛鳥)	2人
第2選挙区(新堀、広野、広栄町)	2人
第3選挙区(浜中、袖浦、宮野浦)	3人
第4選挙区(東平田、中平田、北平田、こあら)	4人
第5選挙区(上田、本楯、南遊佐、上安、下安)	3人
第6選挙区(旧八幡町)	3人
第7選挙区(旧松山町)	2人
第8選挙区(旧平田町)	3人
計	22人
選任委員	7人(団体推薦・議会推薦)
合計	29人

## 「やる気」「元気」のある 農業青年の仲間を募集!!

~農業青年出合い・交流創設事業~

農業青年の出会いと交流の場の創設事業として、農業体験を通じた交流イベントを実施いたします。

そこで、一緒に活動してくれる仲間(実行委員)を下記のとおり募集します。

### 【対象となる農業青年】

次に掲げる全ての要件を満たす人

- ①酒田市内の農村集落に住所を有する人
- ②概ね40歳までの人
- ③独身の人



【募集人員】 約15名

【募集締切】 イベント時まで随時

【申込・問合せ先】 酒田市農業委員会

☎26-5767

## かぜ

~若手農業者リレーエッセー~



平成一七年に八幡町農協青年部として活動が再開され、七年目を迎えました。その間に、自分自身も農業に対して専従するなどの変化がありました。JA庄内みどり青年部の執行委員や山形県農業協同組合青年組織協議会委員などの活動では、農政活動や食農教育・組織強化の活動に力を入れていきます。

先日、初めて田んぼの生きもの調査に参加しました。

田んぼの生きもの調査は、田んぼでの米作りが営まれることで成り立っている豊かな生態系への理解と、今後の自然との共生を目的にしています。一般の人からも参加

## 『田んぼの生きもの調査』

八幡地区・福山 石川正志

してもらおうことで、農村地域への理解促進も目指しています。今回の調査でも、絶滅が危惧されているタイコウチやメダカを調査エリアから見つけることができました。田んぼには、カメムシのように米に対しての害虫もいますが、クモやイトミミズのような益虫もいます。田んぼをすみかとするただの虫もいます。田んぼ周辺に生息する虫は、約一七〇種類にも及ぶそうです。

今回は三〇種くらいの発見でしたが、時期が違えばまた違った生きものに出会えたはずですが、一緒に参加した子どもたちは、三〇種もいたことに驚いていました。

田んぼが成り立つことで生まれる水や空気、風景はもちろん、豊作などを祈る祭りは、地域の伝統文化に大きく影響を与えていると思います。田んぼが支えるものの大きさを思うと、より農業をがんばろうと思う機会になりました。



## 短 信

### 新農業委員の紹介

阿部博明委員



酒田市袖浦農業協同組合からの推薦委員であった白畑喜治氏が退任されて、新しく六月一日付で阿部博明氏が選任されました。農地部会に所属します。

# 全国農業新聞

農家の経営とくらしに役立つ  
情報をお届けします!!

- 発行日 毎週金曜日
- 購読料 1ヶ月 600円

## 農業者の皆さん 老後の備えは万全ですか?

魅力いっぱいの  
農業者年金に  
加入しましょう!!



### 【農業者年金のメリット】

- 少子・高齢時代に強い積立方式の年金!
- 終身年金で80歳までの保証付き!
- 支払った保険料は全額社会保険料控除!
- 手厚い政策支援! 保険料に国庫補助も!

~農業者の方なら広くご加入いただけます~



農業者年金・全国農業新聞のことは、農業委員会までお問い合わせください。Tel.26-5767

# 酒田の キラリな女性たち

# 「でんでん虫」



「でんでん虫」の皆さん



取れたての野菜に思いを込めて作業

取れたての新鮮な野菜を食べてもらって野菜を好きになってほしいと、本楯の5人のお母さんが、ゆっくり歩いていけたらと思いを込めた「でんでん虫」も活動開始から11年になります。

思いを受け取っていただけた地元小学校に平成14年から食材を使っただけ、保育園やデイサービスセンターからも注文をいただいています。また、「さかた・きたく ふれあい市」をきっかけとし、本楯の野菜、米、加工食品などを定期的にする宅配便「ふくろう便」も月1回ペースで発送しています。最近では、収穫できた量だけ業者を通して東京都板橋区でも販売を行い、酒田ファンを増やしています。

私たちのために手助けしてくれる方々の理解と支えがあつてのことと感謝を忘れず、相互理解を深めていきたいと思ひます。

代表 伊藤 榮子 / 会員数5名



本楯の旬がいっぱい詰まった「ふくろう便」



賑わう「さかた・きたく ふれあい市」

コメの先物取引が認可された。二年間の試験上場であるが、在庫差損の発生を抑えたい業者は歓迎の意向を示している。しかし、実際に取引に参加するかどうかは市場機能を見極めてから判断するといった姿勢である。

先物市場は、公正な価格指標を発信するという役割を持っている。公開の場で需要と供給の思惑が入り乱れながら決定されていく先物価格は、出来秋の現物価格に大きな影響を与えるだろう。コメをマネーゲームの対象とすることは問題であるとして、先物取引には不参加を表明しているJAであっても、その米価決定の際には看過することはできないだろう。

昨年一〇月には、東京の商品取引所と穀物取引所の統合が報道されたが、今回の上場により白紙撤回され混乱を招いている。その裏側には、農水省の意向が大いに働いているという。

取引開始に先立ち、価格調整表が明示された。この中で、はえぬきは関東産コシヒカリより一〇〇〇円安いコメという評価が既に下されている。

(kazz)

